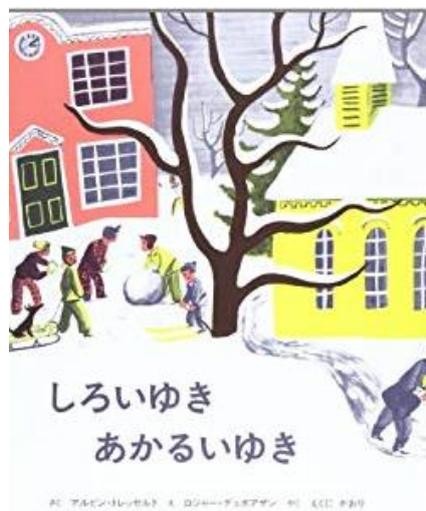


～読んでみない？こんな本～

しろいゆき あかるいゆき

アルビン・トレッセント作 ロジャー・デュボアザン絵 えくにかおり訳



雪が降った時の楽しみを、一番知っているのは子ども達でしょう。雪の中でたくさん遊ぶ「とらたとおおゆき」や、冬王さまに会う「ウッレのスキーのたび」などの絵本も雪と過ごすことが描かれていますが、この本は雪が降ってくる時に感じる、何か特別なことを待っているような気持ちから始まり、最初の春が来るまでの様子を、静かにゆっくりと語りかけてくれています。

お百姓さんや郵便やさんは雪が降る予感がして空を見上げます。子ども達も最初のひとひらが降ってくるのを待っています。やがて雪は降りはじめ、夜には街中が真っ白な雪で覆われてしまいました。そして翌朝のすっきり晴れた空の下、雪の中で子どもたちは思いきり遊び、大人は雪に合わせた仕事をします。（おまわりさんは風邪をひいてしまいますが…）何か特別なことが起こるわけではないのですが、雪が降るとわくわくしてしまう気持ちや静かに時間が流れていく様子が伝わってきて、日常の近いところにありながら、どこか特別な一日が描かれているような絵本です。

この辺りでは雪がたくさん降ることはあまりありませんが、それでも空気が冷たくて空にもやもやとした灰色の雲が現れると、雪かな？とわくわくしてしまいませんか。今年はどのくらい、雪が降るのでしょうかね。